

最近、髪の毛を染めない人の方珍しいくらい、染める人が増えてきました。白髪染めに限らず、ちよつと明るくしたい、流行の色にしたい：とファッションの一部や気分転換に髪を染める人が多いようで、高校卒業と同時に染める若者も増えていきます。しかし私の個人的感覚として、染料が身体に良いとは思えず、今回詳しく調べてみることにしました。

Vol.127

院長 関の

Face to Face

2019年1月1日発行

ヘアカラーのリスクを考える



日本皮膚学会の「ヘアカラーリング剤(染毛剤・医薬部外品)による皮膚障害の調査報告書」を読んでみると、毎年200件に及ぶ皮膚障害等の事例が報告されている反面、皮膚障害やアレルギーを引き起こす事を知らない消費者が32%、パッチテストを行ったことがない人は68%もいます。日本ヘアカラー工業会が定める自主基準では、毎回染める毎48時

間前にパッチテストをするようにとなっています。医薬部外品化粧品の中で毎回必ずセルフテストを求めているのはヘアカラーリング剤だけです。皮膚障害やアレルギーだけでなく、発がん性を訴える国や人物もいます。EU諸国では発がん性が立証され、全面禁止となった薬剤が日本では未だに使われていたりします。あなたはよく知らないままに当たり前のように髪を染めていませんか？是非この機会にヘアカラーのリスクについてご自分でも調べてみてください。



関 修一(せきしゅういち)

健育会 東銀座整骨院・整体院・

鍼灸院 院長

代替医療の総合治療院としての確立を目指す。タイトルのFace to Faceは「患者さん自身と向き合って患者さんの症状と闘う」ことを願ってつけた

※毎月一日の発行です